

どうすれば広がる？ 降雪時の支え合いの取り組みの輪

西区自治協議会のとりくみ

西区自治協議会 第2部会

加野 麻理子

きっかけ

平成30年の大雪

→特に西区では普段経験しない雪の量。

狭い道・坂道などが多く除雪車などが入らない。

○区役所だけでなく自治会長や民生委員に高齢者等から
「助けてほしい」と除雪相談が多くあった。

取り組みをしている人や団体に負担が集中

○歩道やゴミステーションなど公共の部分



大雪を受けて

自治協 会議前の雑談「大変だったね」「ウチはこんなだったよ」「もっとこうだったらいいのにな」

2018年6月

第1部会(防犯、防災、自然環境、住環境等所管)と第2部会(保健福祉、文化、教育等所管)合同で除雪についての意見交換

- ・区役所での除雪体制について
- ・大雪時の助け合い活動

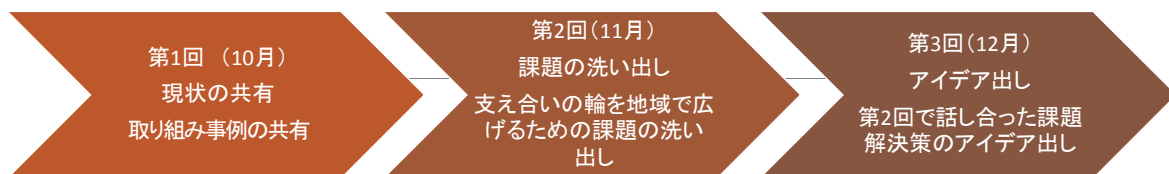
- ・大雪時、皆が大変な思いをした
- ・(次の雪に備えて)なんとかしたい

気持ちや
課題の
共有

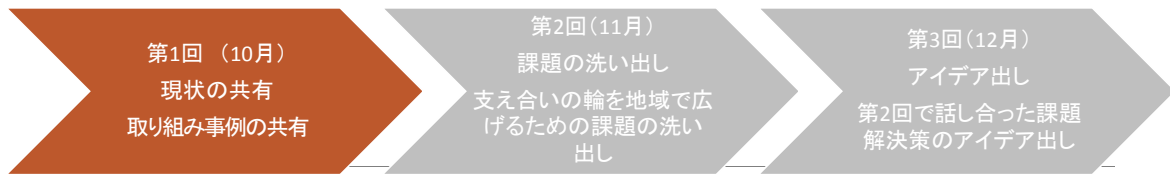
もっと全体的に話ができるといいね

➡ 本会での検討へ

実際の検討方法



- ・自治協本会の場で3か月にわたり全3回実施
- ・検討のテーマは「降雪時の支え合いの輪を地域で広げるために」
- ・区役所が・・・ではなく、住民・地域団体・自治協として何ができるかを検討した。



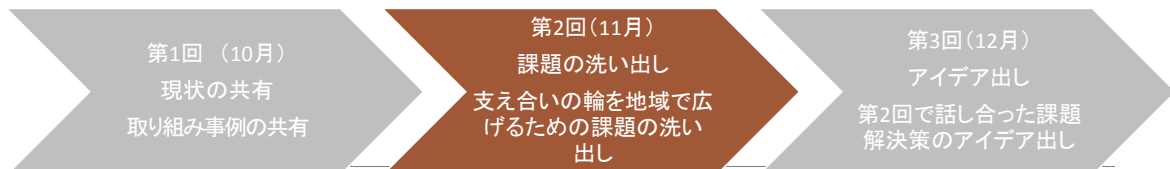
・第1回(10月) 現状の共有

○新中浜町内会「おたすけ隊」の事例紹介

自治会の有償ボランティアで除雪等に取り組む事例の紹介

○自治協委員から地域の取り組み事例や状況等の報告

自分の地域ではどんな状況だったかや地域での対応、助け合いの様子、工夫などを意見交換



・第2回(11月) 課題の洗い出し(グループワーク)

地域別に4つのグループに分かれ、現状や課題、こうしたら良いのではというアイデアを話し合い

出された意見(主なもの)

- ・マンパワー不足
- ・ご近所づきあいが少なくなっている
- ・地域での支え合いの大切さを伝えていくことが必要
- ・子どもたちや若者にも参画してもらいたい



第1回（10月）
現状の共有
取り組み事例の共有

第2回（11月）
課題の洗い出し
支え合いの輪を地域で広
げるための課題の洗い
出し

第3回（12月）
アイデア出し
第2回で話し合った課題
解決策のアイデア出し

・第3回（12月） アイデア出し（グループワーク）

第2回で話し合った課題、「地域での助け合い（共助）の大切さをどのように広め、次世代へどのように伝えるか」

出された意見（主なもの）

- ・支え合いの大切さを伝えるために
→ 標語募集、自治会等の集まりの場で話し合い、広報誌の活用…
- ・地域のコミュニケーションづくりのために
→ 休日に一斉雪かき日、班ごとの茶話会…
- ・若者に協力してもらうために
→ 学校の体育の授業で雪かき、学校単位で支援隊をつくる



実施してよかったこと

○部会を越えた議論

- ・グループワークが良かった。
- ・少人数で話し合いをすることで、一人一人の意見を出し合い検討できた。

○多様な人材の宝庫

- ・自治協委員は様々な地域、様々な団体から集まってきている。
- ・また所属する部会によっても視点が異なる。
- ・こうした多様性から様々な意見、面白いアイデアが出された。

○議論の内容を区民に発信

- ・検討の様子を、自治協の広報紙や区だよりで周知。
- ・多くの人が降雪時の助け合いについて考える周知活動につながった。

今後について

- まだ「検討」した段階。本当に大切なのは自治協としてこれからどんな取り組みができるか。
- 自治協という多様な人の集まりから面白いアイデアが出された。
これから、それぞれが持っている強みやつながりを発揮して取り組みを実施、展開していければ。
- 雪＝毎年降るものではない ものに対し、どう備えていくか。
降雪時に支え合える地域は、普段の助け合いや災害時にも支え合える地域



課題解決のアイデア実現に向けて話し合いを行います。